

平成28年度課外プロジェクト実施報告書

加東市秋のフェスティバルにおける創作ブース

1. 組織

代表者 学校教育系コース 3回生 山本 樹
学校教育系コース 3回生 豊田 洸輔
教育コミュニケーションコース（大学院） 1回生 播田 茜

2. プロジェクトの概要

平成28年10月29日・30日に開催される「加東市秋のフェスティバル」において、創作ブースを設ける。創作ブースにおいては、巨大な帆布を塗ったり、その上に画用紙を使って海の生き物をメインとした作品をつくりをはったりして大きな海のような作品を仕上げる。

家族や友だち、地域の方々に参加していただくことで、地域として多くの関わりが持てる場所を提供するとともに、子どもたちの創造的活動をできる場所を提供する。

3. プロジェクトの計画及び活動詳細

①地域への宣伝

当日の参加を促すために地域への宣伝として、加東市の広報を利用した。加東市役所の広報の方の協力を得て、市内の各家庭に配布される広告の一部に、「手づくり体験ブース」という形で地域の方々の参加を促す宣伝を行った。（右写真）



②創作ブース設置当日

10月29日(土)の9時から16時までブースの設置をおこなった。当日の学生参加メンバーは、有志として参加した。秋のフェスティバルに参加している子どもやその家族が中心となって、子どもは約30名が参加した。それぞれの子どもが思い思いに絵を描き、時には子どもたち同士、親子で作品をつくる場面がみられた。(下写真



また、右下の写真は後日(フェスティバル2日目)のテントの一部を使って作品を展示していた際の写真である。

③ 作品完成後の地域へのお知らせ

創作ブースに参加してくれた子どもたちやその家族、地域の方々に完成後の作品や、制作中の様子をお伝えできるように、加東市の広報の方の協力を得て、加東市の広報の一部に「子ども同士の共同制作」として掲載していただいた。（右写真）



4. 得られた成果

① 参加者が創作活動を楽しんでいた

参加者は主に小学校低学年前後くらいの年齢の子どもが多く、どの子どもたちも楽しみながら活動できていた。特に、巨大な帆布を塗る作業では、普段体験できないサイズの布に体全体を使って色を塗り、絵を描いている様子がみられた。

② 子どもと子ども、親と子どものつながる場所となった

初対面に関わりなく仲良く子ども同士で作業する場面が見られた。また、子どもと親が協力して一緒に作業している場面もみられた。

③ 学生として、地域に関わる態度をもてた

本プロジェクトに関わった学生としては、子どもたちだけでなく、市役所など地域の方や、子どもたちの保護者の方と話す機会も経験できた。教育大学に通う大学生として、普段関わることの少ない方と関わる貴重な経験となった。

5. 費用の内訳

(円)

消耗品	旅費	謝金	その他	合計
73,355	0	0	2,000	75,355